

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進

山城教育局管内の実践から

ICTの積極的な活用

GIGAスクール構想を実現するため、「1人1台端末」と学校における高速通信ネットワークの整備が進んでいます。今後は、児童生徒による調査活動、発表・表現・制作、家庭学習等様々な場面でICTを効果的に活用することが求められています。ここでは「協働的学習支援ソフトの活用方法」について紹介します。



一人で挑戦

一人一人の考えを把握して全体で練り合い

児童生徒は

- 各自の考えを即時に共有できる
- 全体交流で意見の分類や比較がしやすい
- 発表することへの抵抗感が減る

教師は

- 個別支援が必要な児童生徒への対応がしやすい
- 全員の意見を即時に把握し、後の展開に活かすことができる



追究・交流

【実践掲載校】宇治市立岡屋小学校

コロナ禍での学び

コロナ禍にあっても、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、様々な工夫をしながら授業改善に取り組み、児童生徒の豊かな学びを保障していく必要があります。ここでは「感染症対策をとりながらの協働的な学びや授業展開の工夫」について紹介します。

話し合いの工夫(短時間・複数回)

児童生徒は

- 考えを再構築できる
- 焦点化により、話し合う視点が分かる
- 根拠やプロセスが整理しやすい

教師は

- 協働的な学びの場が設定できる
- 焦点化により、授業展開が整理できる
- 変容等を詳細に見取ることができる



当初

グループでの話し合い
15分で設定

WITHコロナ

グループでの話し合い
5分×2に変更

話し合い活動①
「一人学びで考えたことについて交流」

話し合いを踏まえて、
再度一人学び

話し合い活動②
「再構築の根拠、プロセス等の共有」

【実践掲載校】山城地方学校力向上トライアル校
八幡市立橋本小学校

指導と評価の一体化

学習評価は、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。今後は、パフォーマンス評価やルーブリックの設定、指導に生かす評価と記録に残す評価の視点を意識した授業等が必要になります。ここでは、「評価について教師と児童生徒が共通理解を図る取組」について紹介します。※教材研究シート→指導目標、評価方法、授業改善の視点等が明記されています

教材研究シートを児童に配付

児童生徒は

- 評価の視点が把握できる
- 学びの見通しを持つことができる
- 視点を明確にして、自己評価ができる

教師は

- 評価規準を意識した授業ができる
- 指導の見通しを持つことができる
- ゴールを明確にした教材研究ができる



教師用

単元	目標	評価方法	評価項目
算数	1.2.3.4	1.2.3.4	1.2.3.4

児童用

単元	目標	評価方法	評価項目
算数	1.2.3.4	1.2.3.4	1.2.3.4

【実践掲載校】山城地方学校力向上トライアル校
相楽東部広域連合立笠置小学校